

○ 京都大学大学院教育学研究科教授 石井英真（いしい てるまさ）

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。日本学術振興会特別研究員（PD）、京都大学大学院教育学研究科助教、神戸松蔭女子学院大学専任講師、京都大学大学院教育学研究科准教授を経て、2026年4月より現職。博士（教育学）。専門は教育方法学（学力論）。日米のカリキュラム研究、授業研究の蓄積に学びながら、学校で育成すべき資質・能力の中身をどう構造化・モデル化し、それらを実質的に実現しうるカリキュラム、授業、評価をトータルにどうデザインしていけばよいのかを考えている。

主な著書に、『増補版・現代アメリカにおける学力形成論の展開』（東信堂、2020年）、『授業づくりの深め方』（ミネルヴァ書房、2020年）、『教育「変革」の時代の羅針盤』（教育出版、2024年）、□『カリキュラム・オーナーシップ』（教育開発研究所、2026年）、『今求められる学力と学び』（放送大学教育振興会、2026年）、『「地味にいい学校」に学ぶ実践のオーナーシップの育み方』（日本標準、2026年）等多数。

○ 福島県立いわき総合高等学校校長 南郷 市兵（なんごう いっぺい）

日本生活科・総合的学習教育学会常任理事、同学会福島支部会長、早稲田大学環境総合研究センター招聘研究員、石川県・奥能登県立高校魅力化検討ワーキング委員、いわき FC 新スタジアムの在り方検討委員会 IGUP 委員、（前）大熊町立学び舎ゆめの森 校長・園長、（元）福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 副校長、（元）中央教育審議会教育課程部会専門委員

大手インターネット企業勤務を経て文部科学省入省。東日本大震災後に震災を契機とした新たな教育の創造を目指した「創造的復興教育」を推進。原発事故による避難を強いられた福島県双葉郡の教育復興に携わり、2015年4月、福島県立ふたば未来学園の開校と同時に副校長として着任。同時に中央教育審議会教育課程部会専門委員（総合学習 WG）を務める。2023年4月、12年の避難生活を経て帰還した大熊町立学校及びこども園の校長・園長に着任し、幼児教育と学校教育を一体化したシームレスな学び舎づくりに取り組む。2026年4月より現職。

著書に、『学習指導要領の未来』（寄稿、2021年9月、学事出版）、『「アクティブ・ラーニング」を考える』（寄稿、教育課程研究会 編、2016年9月、東洋館出版社）、『希望の教育』（文部科学省創造的復興教育研究会 著、2014年3月、東洋館出版社）等。査読論文に『資質・能力を育む防災教育・復興教育 探究学習を軸とした福島県双葉郡の実践を通じて』（「復興(35号)」、日本災害復興学会、2025年）、『防災・復興教育による VUCA な時代を生き抜く能動的市民としての資質・能力の育成』（「社会科教育研究 No. 146」、日本社会科教育学会、2022年）等。

○ 放課後 NP0 アフタースクール 代表理事 平岩 国泰（ひらいわ くにやす）

1974年東京都生まれ。1996年慶應義塾大学経済学部卒業。長女の誕生をきっかけに、放課後 NP0 アフタースクールを起業し、22校のアフタースクールを開校。

2019年新渡戸文化学園理事長就任。日本のモデルとなる未来の学校づくりに挑む。  
2013～2019年、文部科学省中央教育審議会委員。2017年より渋谷区教育委員、2023年教育長職務代理、2025年青山キャンパス長・2026年西原キャンパス長就任。

○ 京都市教育長・全国コミュニティ・スクール連絡協議会会長 稲田 新吾（いなだ しんご）

1987年3月、京都大学法学部卒業。同年4月に京都市教育委員会に採用され、2014年4月に総務部長、2017年4月に教育次長、2020年4月に教育政策監を歴任し、2021年4月から現職。採用以来一貫して教育行政に携わる。また、2024年11月、全国コミュニティ・スクール連絡協議会会長に就任。全国の教育長や自治体との連携を図りながら、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の推進に取り組む。